

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-315016

(43)Date of publication of application : 08.11.1994

(51)Int.Cl.

H04H 5/00
H04B 1/10

(21)Application number : 05-103174

(71)Applicant : SANYO ELECTRIC CO LTD

(22)Date of filing : 28.04.1993

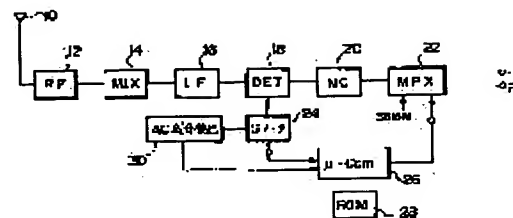
(72)Inventor : SUZUKI HIROHISA

(54) NOISE REDUCTION CIRCUIT FOR RADIO RECEIVER

(57)Abstract:

PURPOSE: To effectively reduce noise at a radio receiver.

CONSTITUTION: A ROM 28 stores the output of an S meter 24, data from an AC component detector 30 and data showing the relation of optimum separation at that time. Then, a microcomputer 26 decides the degree of separation in a multiplex circuit 22 corresponding to the outputs of the S meter 24 and the AC component detector 20, and digital data concerning this degree are supplied to the multiplex circuit 22. The digital data supplied to the multiplex circuit 22 are converted to analog data and the level of an L-R signal is adjusted so that separation can be controlled and noise can be reduced.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 25.06.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 02.11.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 11-18898

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 01.12.1999

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-315016

(43)公開日 平成6年(1994)11月8日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 H 5/00

H 0 4 B 1/10

識別記号

庁内整理番号

T 8732-5K

G 9298-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平5-103174

(22)出願日 平成5年(1993)4月28日

(71)出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72)発明者 鈴木 裕久

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋
電機株式会社内

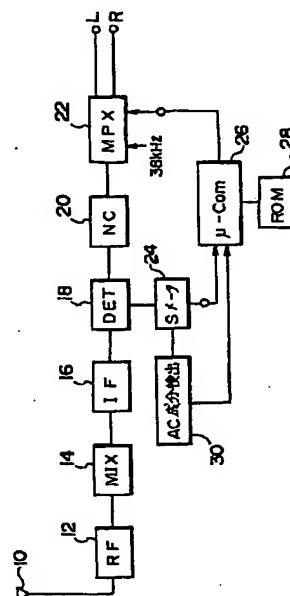
(74)代理人 弁理士 吉田 研二 (外2名)

(54)【発明の名称】 ラジオ受信機のノイズ低減回路

(57)【要約】

【目的】 ラジオ受信機におけるノイズを効果的に低減する。

【構成】 ROM28には、Sメータ24出力およびAC成分検出器30からのデータとそのときに最適なセパレーションの関係を示すデータが記憶されている。そこで、マイクロコンピュータ26は、Sメータ24およびAC成分検出器20の出力に応じてマルチプレクス回路22におけるセパレーションの程度を決定し、これについてのデジタルデータをマルチプレクス回路22に供給する。マルチプレクス回路22には供給されるデジタルデータをアナログデータに変換しL-R信号のレベルを調整することでセパレーションを制御し、ノイズを低減する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ステレオ放送を受信し得るラジオ受信機のノイズ低減回路であって、
 L+R信号とL-R信号を加算し、L信号およびR信号を取り出すステレオ分離回路と、
 L-R信号を減衰する減衰回路と、
 希望局信号の受信レベルとL-R信号の減衰量の関係を示すデジタルデータを記憶する記憶部と、
 希望局信号の受信レベルを検出する希望局信号レベル検出回路と、
 検出された希望局信号レベルに基づいて、記憶部に記憶されているデータを読み出し、これに基づいて上記減衰回路における減衰量を制御する制御手段と、
 を有することを特徴とするラジオ受信機のノイズ低減回路。

【請求項2】 ステレオ放送を受信し得るラジオ受信機のノイズ低減回路であって、
 L+R信号とL-R信号を加算し、L信号およびR信号を取り出すステレオ分離回路と、
 L-R信号を減衰する減衰回路と、
 希望局信号のAC信号のレベルとL-R信号の減衰量の関係を示すデジタルデータを記憶する記憶部と、
 希望局信号のAC信号レベルを検出するAC信号レベル検出回路と、
 検出された希望局信号レベルに基づいて、記憶部に記憶されているデータを読み出し、これに基づいて上記減衰回路における減衰量を制御する制御手段と、
 を有することを特徴とするラジオ受信機のノイズ低減回路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、車載用ラジオ受信機など受信信号レベルの変化が大きいラジオ受信機におけるノイズ低減、特に受信状態に応じてステレオ信号のセパレーションを制御してノイズを低減するものに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来より、FM放送においてはステレオ放送がなされており、ラジオ受信機はFM放送波の受信の際に、左側のL信号と、右側のR信号を分離して再生できるようになっている。現在のFM放送は、パイロットトーン方式を利用しており、1つの電波の中にL+R信号と、L-R信号が含まれており、L+R信号のみを再生することでモノラルとしての再生も可能になっている。そして、このFM放送波の周波数スペクトルは図17のようになっており、パイロット信号の周波数は19kHzであり、L-R信号は38kHzの副搬送波抑圧振幅変調したものである。

【0003】 このように、FM放送波においては、L-R信号が高周波数側にある。また、FM復調後のノイズは三角雑音と呼ばれるように、周波数が高くなるほど大

きくなる。このため、ノイズを低減するためには、L-R信号のレベルを小さくすればよい。そこで、従来のラジオ受信機には、SNC（ステレオノイズコントロール）が設けられており、これによって希望局信号のレベルが低い場合に、L-R信号の減衰量を大きくして、ノイズの低減を図っている。ここで、このようにL-R信号を減衰すると、左右ステレオ信号の分離度が悪くなる。すなわち、LRの分離は、

$$(L+R) + (L-R) = 2L$$

$$10 \quad (L+R) - (L-R) = 2R$$

という加算処理を利用して行っているため、L-R信号を減衰すれば、LチャンネルにR信号が、RチャンネルにL信号が漏れ、分離度が悪化する。

【0004】 このように、SNCにおいては、受信状態の良い時にはステレオ再生を行い、受信状態が悪化した時に左右のセパレーションを悪化させ、ノイズの発生を抑制している。

【0005】 また、車載ラジオにおいてはその走行に伴い、多重電波伝搬に起因するマルチパスノイズの影響を受ける。このマルチパスノイズに対しても、上述の三角雑音の場合と同様に高周波数帯域の信号を抑圧することで、ノイズを減少することができる。また、マルチパスノイズが発生すると希望局信号のレベルが小さくなり、この希望局の周波数の雑音が相対的に大きくなる。そこで、従来の装置では、SNCによるステレオの左右のセパレーションを制御し、マルチパスノイズの影響を減少している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 ここで、従来のSNCは、L-R信号の信号レベルをSメータからの出力に応じて直線的に変更していた。すなわち、希望局信号のレベルを検出するSメータの出力を1つのトランジスタのベースに入力し、このトランジスタに流れる電流量に応じてL-R信号のレベルを決定していた。

【0007】 ところが、ノイズ除去に最適なL-R信号の減衰度とSメータの出力との関係は、必ずしも簡単な関係ではなく、またラジオ受信機の特性によって最適なL-R信号の減衰度も変化する。さらに、マルチパスノイズに対する応答も必ずしも画一的で良いわけではない。

【0008】 従って、従来の装置では、最適なL-R信号の減衰によるノイズの低減が図れないという問題点があった。

【0009】 本発明は、上記問題点を解決することを課題としてなされたものであり、最適なL-R信号の減衰を得られるラジオ受信機のノイズ低減回路を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】 本発明は、ステレオ放送を受信し得るラジオ受信機のノイズ低減回路であって、

L+R信号とL-R信号を加算し、L信号およびR信号を取り出すステレオ分離回路と、L-R信号を減衰する減衰回路と、希望局信号のレベルとL-R信号の減衰量の関係を示すデジタルデータを記憶する記憶部と、希望局信号の受信レベルを検出する希望局信号レベル検出回路と、検出された希望局信号レベルに基づいて、記憶部に記憶されているデータを読み出し、これに基づいて上記減衰回路における減衰量を制御する制御手段と、を有することを特徴とする。

【0011】また、本発明は、ステレオ放送を受信し得るラジオ受信機のノイズ低減回路であって、L+R信号とL-R信号を加算し、L信号およびR信号を取り出すステレオ分離回路と、L-R信号を減衰する減衰回路と、希望局信号のAC信号のレベルとL-R信号の減衰量の関係を示すデジタルデータを記憶する記憶部と、希望局信号のAC信号レベルを検出するAC信号レベル検出回路と、検出された希望局信号レベルに基づいて、記憶部に記憶されているデータを読み出し、これに基づいて上記減衰回路における減衰量を制御する制御手段と、を有することを特徴とする。

【0012】

【作用】このように、本発明においては、受信レベルとL-Rの減衰量の関係についてのデータをデジタルデータとして記憶している。そして、検出した受信レベルに基づいて記憶しているデータを読み出しL-Rの減衰量を決定し、このデジタルデータに基づいてL-R信号の減衰を制御する。

【0013】また、本発明においては、AC成分とL-Rの減衰量の関係についてのデータをデジタルデータとして記憶している。そして、検出したAC成分の大きさに基づいて記憶しているデータを読み出しL-Rの減衰量を決定し、このデジタルデータに基づいてL-R信号の減衰を制御する。

【0014】このように、L-R信号の減衰をデジタルデータによって制御する。従って、装置の特性に応じてきめ細かな設定を行うことができ、好適なノイズ除去を達成することができる。

【0015】

【実施例】以下、本発明の実施例について、図面に基づいて説明する。図1は、全体構成を示すブロック図であり、FM放送電波はアンテナ10で受信され、RF回路12に入力される。RF回路12は、RF信号を増幅し、混合回路14に入力する。混合回路14は、増幅されたRF信号と局部発振回路の出力信号を混合し、常に一定の中間周波数のIF信号を得ると共に、セラミックフィルタによって中間周波数の以外の周波数成分を除去する。このようにして得られた狭帯域のIF信号は検波回路18に入力され、検波される。検波回路18の出力は、ノイズキャンセラー20に入力され、パルスノイズが除去される。

【0016】そして、ノイズキャンセラー20の出力は、マルチプレクス回路22に入力され、左信号Lと右信号Rが分離されて出力される。すなわち、FM放送はL+R信号とL-R信号を有しており、マルチプレクス回路22はこのL+R信号とL-R信号の加減算によって、L信号とR信号を取り出す。ここで、L-R信号は39kHzの副搬送波を変調しているため、加減算の前にこの復調も行う。そして、このようにして得たL信号およびR信号をスピーカ等の出力手段に供給して、ステレオ音声出力を行う。

【0017】また、検波回路18において得られた希望局の信号レベルはSメータ24において検出される。そして、このSメータの検出値がマイクロコンピュータ26に供給される。マイクロコンピュータ26は、このSメータ24の検出値に応じて、マルチプレクス回路22における動作を制御し、ノイズをコントロールする。マルチプレクス回路22におけるノイズコントロールには、ステレオの分離度を制御するSNC(ステレオノイズコントロール)と高周波成分をカットするHCC(ハイカットコントロール)があり、SNCはSメータ24の検出値が所定値以下になったときに動作を開始し、徐々にセパレーションを悪化させる。そして、HCCは、Sメータ24の検出値がモノラルに移行する値よりさらに小さくなったときに、動作を開始し、高周波成分をカットする。

【0018】さらに、本実施例では、Sメータ24の検出信号中のAC成分のレベルを検出するAC成分検出回路30を有している。このSメータ24の検出信号中のAC成分が大きくなるということは、希望局信号の受信状態が悪化したことを示しており、車載ラジオ受信機においては、マルチパスノイズの影響である場合が多い。そこで、マイクロコンピュータ26は、Sメータ24の出力に応じて、SNCおよびHCCを制御する。

【0019】図2にマルチプレクス回路22の構成を示す。このように、ノイズキャンセラー20からの出力は、L+R回路32、L-R回路34、およびハイカットL+R回路36に入力される。そして、L+R回路32は、入力信号の内のL+R信号を選択し出力する。

【0020】L-R回路34は、L-R信号に入力されてくる38kHzの信号を掛け算することによって、L-R信号を復調する。なお、38kHzの信号は、PLL回路で再生されたものであり、入力信号の副搬送波と同期のとれたものである。

【0021】ここで、L-R回路34は、D/A変換器から入力される信号に基づいて、出力されるL-R信号のレベルを変更する手段を有しており、マイクロコンピュータ26の出力信号によって、L-R回路34の出力信号レベルが変更される。すなわち、38kHzの副搬送波を変調するL-R信号に38kHzの信号を乗算し復調する際の前記38kHzの信号のレベルをマイクロ

コンピュータ26からの信号に応じて変更することにより、復調されるL-R信号のレベルを変更する。なお、レベル変更の方法は、単なる増幅率の変更など各種の手段が採用可能である。

【0022】一方、マイクロコンピュータ26は、予め記憶しているマップ等に基づいて、Sメータ24で検出した希望局信号の受信レベルに応じて、SNCにおける分離度(Sep)を変更する。すなわち、Sメータ24において検出した希望局信号レベルが小さい場合には、L-R信号のレベルを小さくし、セパレーションを悪化 10させ、モノラルに近い再生にしてノイズを除去する。そして、モノラルにしてもノイズが多いという、Sメータ24の出力が非常に小さい場合には、HCCを動作させ、高周波成分をカットする。

【0023】ここで、マイクロコンピュータ26は、ラジオ受信機の信号処理を行うチューナICとは、別に設けられており、SNC、HCCだけでなく、ラジオ受信機の各種の動作を制御する。インターフェース38は、マイクロコンピュータ26と所定のバスによって接続されており、マイクロコンピュータ26の出力であるセパ 20レーション制御データは、インターフェース38を介し、D/A変換器36に供給され、ここでアナログデータに変換され、L-R回路34に供給される。

【0024】L+R回路32とハイカットL+R回路36の出力は、加算器40、42において加算される。ここで、ハイカットL+R回路36の出力信号はL+R信号の高周波成分がカットされたものであるため、ハイカット動作が開始され、ハイカットL+R回路36の出力成分の割合が多くなると加算器40、42の出力は、高周波成分が抑圧されたものになる。

【0025】また、加算器40、42の出力は、L-R回路34からの出力が入力される加算器44および減算器46に入力される。そして、この加算器44において、 $L+R+L-R=2L$ の処理を行い、L信号を取り出し、減算器46において、 $L+R-(L-R)=2R$ の処理を行い、R信号を取り出し、これらを出力端48、50から出力する。そして、例えばL-R信号をL+R信号の1/2に減衰することによって、出力端48に得られる信号は、 $1.5L+0.5R$ となり、出力端50に得られる信号は、 $1.5R+0.5L$ となる。さらに、L-R信号が0になれば、出力端48、50からの出力は共にL+Rとなり、モノラル再生になる。

【0026】例えば、図3に示すように、Sメータ24の出力が所定値以下になった場合にSNCによってL-R信号を減衰し始める。これによって三角雑音が減少され、ノイズの抑圧が計れる。そして、Sメータ24出力が所定値以下になった場合には、モノラル再生になる。Sメータ24出力が、このモノラル再生となった値より低い場合には、SNCによるノイズ除去は行えない。そこで、HCCにより信号の高周波数帯域をカットするこ 50

とで、ノイズの減少を図る。このHCCによる制御(ハイカットL+R回路36の制御)もマイクロコンピュータ26からの信号をインターフェース38、D/A変換器52を介し、ハイカットL+R回路36に供給することによって行う。また、ハイカットL+R回路36における減衰も通常の方法が採用可能である。

【0027】このように、本実施例によれば、マイクロコンピュータ26からの信号によって、SNC、HCCにおけるノイズ除去を任意のものに設定することができ、従って、これらの特性を所定のものに設定することができ、好適なノイズ除去を行うことができる。

【0028】ここで、Sメータ24の出力に対し、SNCにおけるL-Rの減衰量をどのように設定するか、またHCCにおけるハイカット量をどのように設定するかは、予めROM28に記憶されている。すなわち、後述するような方法によって、特性を調べ、この結果が記憶されている。そこで、このROM28に記憶されているデータに基づいて、好適なSNC、HCCの制御を行うことができる。

【0029】さらに、本実施例においては、AC成分検出回路30からの検波出力のAC成分レベルについての信号がマイクロコンピュータ26に供給されている。そして、このAC成分のレベルと、SNCのL-R信号の減衰またはHCCによるハイカットについての関係もROM28に記憶されている。そこで、マイクロコンピュータ26はAC成分検出回路30からの信号に応じて、ROM28から対応するデータを読み出し、SNCまたはHCCについての所定の制御が行われる。

【0030】なお、Sメータ24出力からAC成分を検出を行うAC成分検出回路30は、後述するように、Sメータ24出力の出力経路にDCカット用のコンデンサと、積分回路から構成されている。そこで、コンデンサによって交流成分を取り出した後、これを積分することによってAC成分のレベルを検出する。また、アンテナ10、マイクロコンピュータ26、ROM28以外は、チューナICに内蔵される。

【0031】次に、ROM28に記憶されるデータについて、その内容および記憶の方法について説明する。まず、図4に示すように、マルチプレクス用信号発生回路60およびパソコン62およびACボルトメータ64、66を設ける。マルチプレクス用信号発生回路60は、マルチプレクス回路22への入力信号を発生する。この信号の特性はパソコン60が決定し、例えばLのみRのみの信号を発生する。そして、この状態でマイクロコンピュータ26が、L-R信号の減衰率を変化させる信号を出力する。これによって、セパレーション制御データに応じたL信号レベルおよびR信号レベルをACボルトメータ64、66により検出することができ、マイクロコンピュータ28の出力とステレオのセパレーションの 50

【0032】そして、例えば図5に示すように、マイクロコンピュータ26の出力であるセパレーション制御データと、ステレオのセパレーション (Sep) の関係が求められる。この図の例では、マイクロコンピュータ26の出力データがMである場合にセパレーションが最大となる。これは、この点において、L-R信号の大きさがL+R信号の大きさと同一となったものと考えられる。そして、このようなテストの結果によりセパレーションをどの程度にセットしたいかに応じてセパレーション制御データを決定できる。

【0033】図6に示した例では、FM信号発生回路64およびSメータ24の出力をデジタルデータに変換するA/D変換器66を有している。そして、FM信号発生回路64からのFM信号をパソコン64で順次変更し、これによって各種電界をチューナICに入力する。そして、この時のSメータ24の出力信号のレベルをA/D変換器66、デコーダ38を介し、マイクロコンピュータ26、パソコン62に取り込む。これによって、希望局信号の電界レベルとSメータ24の出力の関係が調べることができ、図7のような関係を得ることができる。また、この時Sメータ24の出力電圧は、デジタルデータとして認識され、両者には図8に示す関係がある。そこで、パソコン62は、図9に示すような電界強度とSメータ24の出力電圧の関係をデジタルデータ (Sメータデータ) として認識することができる。そして、この関係についてのデータをROM28に記憶する。

【0034】ここで、電界強度 (アンテナ10において受信される希望局の信号レベルに等しい) とステレオの左右のセパレーションの関係を図10のように設定する場合を考える。この場合には、図9の電界強度とSメータデータの関係と、図5のセパレーション制御データとセパレーションの関係から、電界強度とセパレーションの関係を図11のようなSメータデータとセパレーション制御データの関係に変換し、これをROM28に記憶する。

【0035】そこで、ラジオの動作時においては、マイクロコンピュータ26がSメータ24の出力をSメータデータとして取り込み、ROMに記憶されている図11の関係からセパレーション制御データを得て、これを出力する。このセパレーション制御データはデコーダ38、D/A変換器36を介しマルチプレクス回路22に供給され、L-R信号のレベルが調整され、セパレーションが調整される。これによって、図10に示す電界強度とセパレーションの関係が得られ、好適なノイズ低減が図られる。

【0036】次に、マルチパスノイズについての対策について説明する。図12に示すように、チューナICはコンデンサ70、アンプ72、抵抗74aおよびコンデンサ74bからなる積分器74、A/D変換器を有して

いる。そして、Sメータ24の出力は、コンデンサ70によってDC成分がカットされてアンプ72に供給され、ここでAC成分が増幅される。アンプ72の出力に積分器74が接続されているため、ここでAC成分がDCに変換され、Sメータ出力のAC成分の大きさの信号が得られる。そして、この積分された信号がA/D変換器76でデジタルデータに変換される。このため、マイクロコンピュータ26およびパソコン62において、Sメータ24の出力におけるAM成分のレベルを認識することができる。

【0037】一方、この例では、信号発生器として、FM信号発生器64の他にAC信号発生器78を有している。そこで、FM信号をAM変調して、出力信号にAC成分を重畳することができる。そして、パソコン62によってAC成分を制御することによって、AC成分の大きさとアンプ72から出力される電圧 (実際には、これがA/D変換されたデータ) の関係が図13に示すように得られる。

【0038】そして、AC成分が多いということは、希望局信号のレベルが低く、マルチパスノイズが発生していることを示しており、AC成分の増加に伴い、セパレーションを低下させるべきである。そこで、図14に示すように、AC成分の増加に応じてセパレーションが低下するように制御する。すなわち、ROM28に記憶されている電界強度とセパレーションの關係にさらにAC成分の大きさのファクターを追加し、同一電界強度であっても、AC成分が大きい場合には、セパレーションを低下させる。このため、ROM28は、セパレーション制御データを得るためのマップを3次元のマップとして記憶する。そして、動作時には、Sメータ出力およびAC成分の大きさからセパレーション制御データを読み出し、これによってセパレーションを制御する。

【0039】このようにして、マルチパスノイズにより希望局信号が低下した場合に、これをAC成分の増加として検出し、これに応じたセパレーションの制御を行うことができる。

【0040】さらに、セパレーションが急激に変化すると、音の特性が変化し、聞き手に違和感を与える。そこで、図15に示すようにSメータ24の出力電圧が実線のように変化した場合に、セパレーションを図15の破線で示すように制御する。この処理は所定のプログラムによって可能である。一方、この処理は、Sメータ24の出力自体を破線のように鈍らせてもよい。この場合は、Sメータ24の出力を所定の時定数の積分器で積分するとよい。このように、セパレーションを図15の破線のように制御することによって、セパレーションの変化を緩やかにすることができ、出力音声を違和感のないものにできる。

【0041】また、マルチパスノイズは、車両の走行に伴い短時間だけ希望局信号のレベルが落ちるものであ

10

20

30

40

50

る。従って、このマルチパスノイズによって、図16に実線で示すように、AC成分のピークが生じる。そして、このようなマルチパスノイズにそのまま追従してセパレーションを制御すると、違和感が生じる。そこで、図16に破線で示すように、セパレーションをAC成分の立上がりに対してはすぐに追従して低下させるが、セパレーションの復帰はゆっくりとなるように制御する。このような制御により出力音声を違和感のないものにできる。なお、このような制御は、マイクロコンピュータ26のプログラムによって行うのが好適である。

【0042】また、温度特性の補償も同様の手法によって行うことができる。すなわち、温度のパラメータを追加して制御を行うことによって、温度の補正を行うことができ、回路の温度補償も行うことができる。

【0043】ROM28に記憶するデータの作成は、SNCによるノイズカットについてのみ記載したが、HCCによるノイズカットにおけるデータも同様に得ることができる。

【0044】

【発明の効果】以上説明したように、本発明に係るラジオ受信機のノイズ低減回路によれば、デジタルデータによってノイズ低減を制御する。従って、装置の特性に応じてきめ細かな設定を行うことができ、好適なノイズ除去を達成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例の全体構成を示すブロック図である。

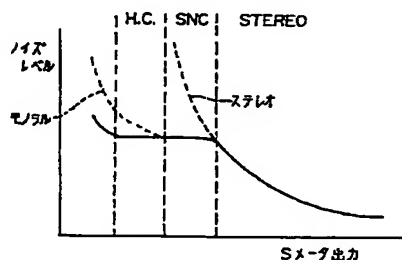
【図2】マルチプレクス回路の構成を示すブロック図である。

【図3】Sメータ出力とノイズレベルの関係を示す特性図である。

【図4】セパレーションの制御特性測定のための構成を示すブロック図である。

【図5】セパレーション制御データとセパレーションの

【図3】



関係を示す特性図である。

【図6】Sメータの出力と電界強度の関係を測定するための構成を示すブロック図である。

【図7】電界強度とSメータ出力の関係を示す特性図である。

【図8】Sメータ電圧とそのデジタル電圧（Sメータデータ）の関係を示す特性図である。

【図9】電界強度とSメータデータの関係を示す特性図である。

10 【図10】目標となる電界強度とセパレーションの関係を示す特性図である。

【図11】セパレーション制御データとSメータデータの関係を示す特性図である。

【図12】AC成分測定のための構成を示すブロック図である。

【図13】AC成分とこれに応じた電圧の関係を示す特性図である。

【図14】電界強度およびAC成分に対するセパレーションの関係を示す特性図である。

20 【図15】Sメータ電圧とセパレーションの時間変化を示す特性図である。

【図16】AC成分とセパレーションの時間変化を示す特性図である。

【図17】FM放送波と三角雑音の周波数特性を示す図である。

【符号の説明】

18 検波回路

22 マルチプレクス回路

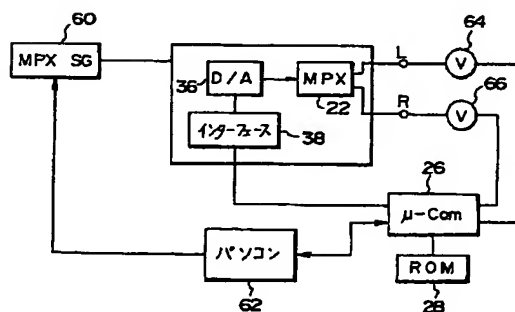
24 Sメータ

30 26 マイクロコンピュータ

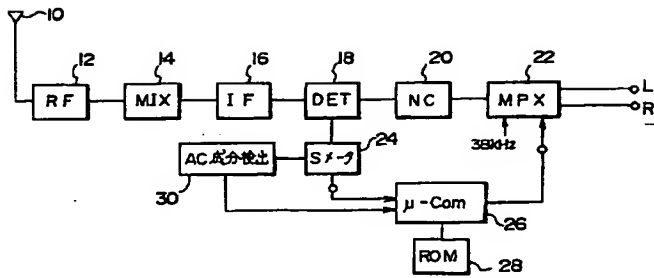
28 ROM

30 AC成分検出回路

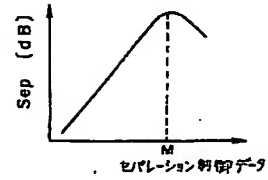
【図4】



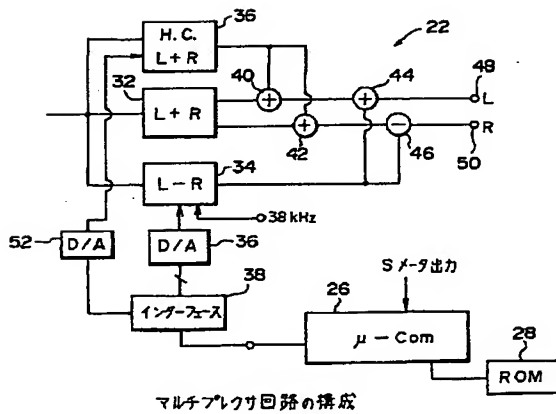
【図1】



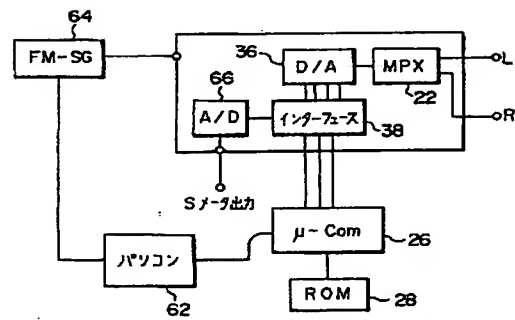
【図5】



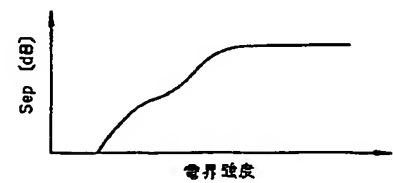
【図2】



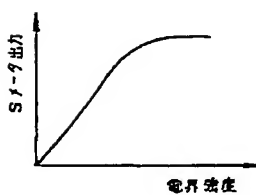
【図6】



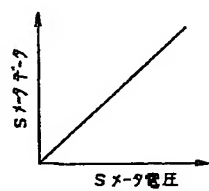
【図10】



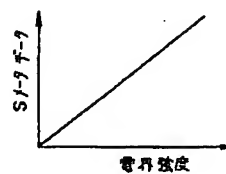
【図7】



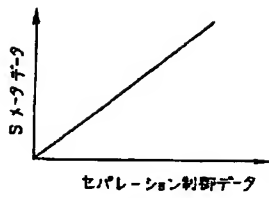
【図8】



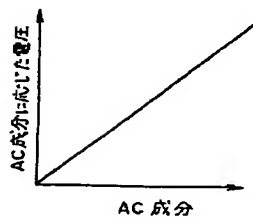
【図9】



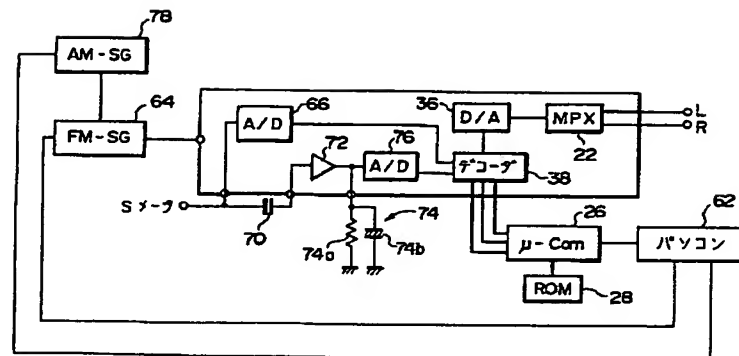
【図11】



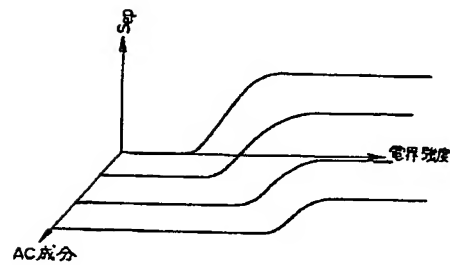
【図13】



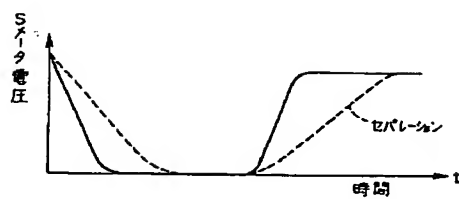
【図12】



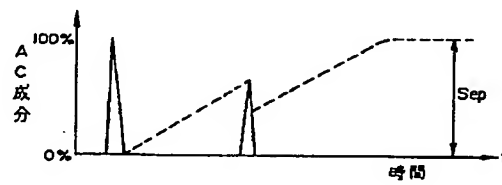
【図14】



【図15】



【図16】



【図17】

